

平成21年6月17日 大学院懇談会資料

組織的な大学院教育改革推進 プログラム

沖縄県立看護大学大学院GPWG
神里みどり、野口美和子、
當山富士子、玉城清子

本大学における島嶼看護の取組

看護学部看護学科

| | | | | | | | |
|-------------------------------------|-------------------|-----------------------------|--------|--------|---------------------|--------|------------------|
| 統合実習 卒業論文 研究への導入 原著購読 島嶼に関する卒業論文 | | | | | | | |
| 基礎看護 離島での実習 | 国際保健看護 ハワイ大学研修 | 島嶼保健看護論 離島での実習 地域保健看護 | 精神保健看護 | 小児保健看護 | 離島での実習 母性保健看護・助産 | 成人保健看護 | 離島での実習 老年保健看護 |

別科・助産専攻
離島実習

入学定員：80名

(内、地域推薦による離島過疎看護に興味のある者の受け入れ)

入学定員
20名

大学院博士前期・後期課程

| 文化間保健看護分野 | | 生涯発達保健看護分野 | | 先端保健看護分野 | |
|-----------|--------|------------|---------------|----------|---------------------|
| 保健看護管理 | 地域保健看護 | 母子保健看護 | 成人・老年 保健看護 | 新領域保健看護 | 島嶼保健看護 申請教育プログラム |

入学定員：前期6名、後期2名

島嶼看護教育の充実に向けて の改革課題

島嶼での看護リーダー(高度実践指導者) 育成
島嶼看護教育(学部・大学院)の基盤整備
島嶼現地での教育研究指導の必要性
国際的視野と多職種連携能力の育成
島嶼看護学の確立(国際交流による検証含む)

支援期間終了後の自主的・恒常的な 展開の方略

大学教員の
指導力向上

現地指導
教員の確保

国際的学術
交流の確立

教員の昇任
海外研修の強化

特任教授
島嶼の教育環境の強化

臨床教授
島嶼の教育環境の強化

島嶼看護学領域の常設化と入学定員増

島嶼看護学の高度実践指導者育成の継続と拡大

アジア太平洋地域との交流継続

大学院教育実質化のための取組

教育目標達成のための科目設置

コア科目、課題研究(実践研究)

計画的履修と自立的学習支援

履修指導・研究指導概要の提示、学習・指導進捗状況報告書の提出、共同カンファレンスの開催

確実な研究指導・論文作成

補助教員の配置と複数指導体制、論文審査の要点の提示(便覧)

教員FD

国内外大学院教員と看護教育課程ならびに高度ケア技術教育方法の意見情報交換、ハワイ大学における短期研修(教授法、遠隔教育等)

修学上の院生支援

TA・RAの導入

プログラムの目的・特徴

島嶼看護の高度な実践ならびに実践的教育
研究指導ができる看護指導者の養成

島嶼住民の生活文化に根ざした看護を実現
できる高度な島嶼看護専門能力の育成

宮古島を拠点にした島嶼看護学の現地での
教育研究指導

島嶼現地指導と遠隔指導の融合型教育

〈 本 学 〉

〈 島 嶼 : 宮 古 島 〉

長期履修学生制度

M3

論文発表
論文審査

M2

地域文化看護論(コア科目)

多職種地域連携論(選択科目)

M1

島嶼保健看護特論 I

D3

論文発表
論文審査

D2

国際島嶼看護論(選択科目)

D1

島嶼保健看護特論 II



遠隔講義システム(FCS)
テレビ会議システム

を介した遠隔教育研究指導

島嶼保健看護課題研究

島嶼保健看護実習

島嶼保健看護演習

島嶼保健看護特論 I

島嶼(現地)における実践教育研究指導

島嶼保健看護特別研究 II

TA

RA

島嶼保健看護特論 II

太平洋諸島での交流研修・遠隔ゼミナール・共同研究

* は新設科目

入学者受け入れ: 島嶼看護に関心を持つ者、宮古在住者に限定しない

島嶼看護の新設科目

島嶼保健看護領域

博士前期2名

博士後期1名

| 1年次 本学・宮古 | | 2年次 宮古 | | 3年次 宮古(内:太平洋諸島含む) | |
|---------------------|-------------------|--------------------|-------------------|--|--|
| 島嶼保健看護特論Ⅰ (2単位) | *地域文化看護論 (2単位) | *多職種地域連携論 (2単位) | 島嶼保健看護演習 (2単位) | 海外短期研修 多職種連携の実際 トライアスロン大会 救護活動 ボランティエアワーク | 島嶼保健看護実習 (6単位) 多職種共同研究 課題研究論文審査 |
| Ⅰ島嶼保健看護特論Ⅱ (2単位) | *国際島嶼看護論 (2単位) | 博士論文審査 | | 海外との交流と連携 島嶼・大学の共同 研究の実際 育児不安と虐待防止 高齢者ケアへの活動 | 島嶼保健看護特別 研究Ⅱ(8単位) |

修了要件

30単位以上

16単位以上

* : 科目履修可能科目、他領域から選択可能科目Ⅱ

島嶼現地における履修プロセス

講義ならびに現地・遠隔ゼミ

↓
島嶼地区特有の健康問題の把握

↓
研究計画書作成

↓
倫理審査委員会による審査

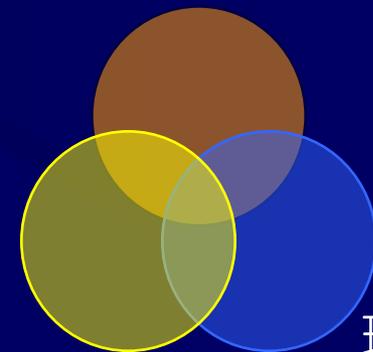
↓
現地共同プロジェクト研究、調査研究

↓
課題研究・特別研究論文審査

↓
研究成果の公表、地域への還元

共同指導体制
グループワークによるプロジェクト型
演習・研究

学生



教員

現地指導者

修了後に期待される人材像

大学院博士前期課程：実践指導・調整能力

保健所・市町村の保健看護分野の責任者

病院の副院長、訪問看護ステーションの所長
保健医療福祉領域におけるケアコーディネーター、ケア開発者

学部・大学院研究科の現地実習指導者
大学院ならびに教員との共同研究者

大学院博士後期課程：実践教育指導・研究能力

島嶼保健看護学の教育研究指導にあたる大学教員

実践的教育研究指導にあたる臨床指導教授等

プログラムの支援体制

遠隔システムの充実(テレビ会議など)

現地の講義室、ミニ図書館の確保

現地指導者の選定、教育指導調整会議、FD教育

演習・実習のための講師または助教1名の確保

研究科教務委員会による指導体制

プログラムの適正運営に関する評価

期待される成果

島嶼看護の高度実践指導者が育成される

離島地区での保健医療福祉が活性化される

島嶼看護学が確立される

大学院教育改革支援プログラム「島嶼看護の 高度実践指導者の育成」採択理由

- 1) FDの実施体制、特に県内看護職のリーダーと共に看護学教育に関する学習を行なう「ナースングリーダーシップ会議」は優れた取り組み。
- 2) 夜間・休日の集中講義体制を採用し学生に対する修学上の配慮がなされている。
- 3) 「島嶼の看護活動と多職種連携活動を担う高度実践者、実践的教育研究指導者」の育成という目的は大学の使命に沿う。
- 4) すでに島嶼地域で活躍している看護職との連携が図られており、当該地域の固有な現場の問題を多職種と協働で解決するアクションリサーチを主とした課題研究の取り組みの実現性と実効性が期待できる。

島嶼看護に特化したFDの実施

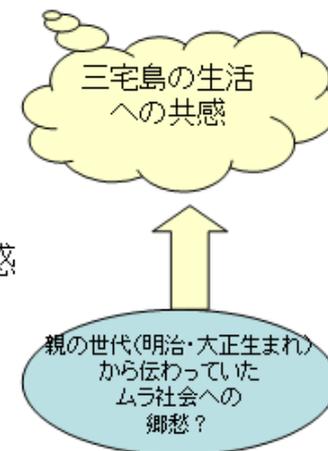
1. 島嶼の暮らしと看護活動：石垣和子
2. リモートエリア（遠隔地）における地域保健活動
グローバルからの視点から：大西真由美
3. 島嶼看護～特に島嶼看護教育について：
植田悠紀子
4. 「島嶼看護」への期待～コミュニティからの
視点から：佐々木雄司
5. ハワイ島における保健看護事情とナースプラクティショナー
の活動及び遠隔教育について：Charlene Ono

島嶼の暮らしと看護活動

千葉大学看護学部
石垣和子

都会で身についた生活態度の変化

- ひととの付き合い方
積極的に行く
構わず迎える
どこの誰とでも・・・
- 子育て姿勢
束縛感 ⇒ 開放感
- 公私の分離の難しさ



村役場の保健師として

- 結果的に、保健所保健師時代は三宅島のアセスメントの期間
 - 三宅島の人たちの気持をよくわかる人(専門職)たちで、ヘルスパromーション(肥満が多い、がん死が多い、糖尿病地域がある、腰痛が多いなど)につなげる何かを計画しよう
- +
- 老人保健法の事業達成目標と補助金
- ||

村民健康大学



リモートエリア(遠隔地)における 地域保健活動 グローバルヘルスの視点から

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻
大西真由美

小島嶼開発途上国が抱える課題

- 人口が少ない。
- 面積が狭い
- 資源に乏しい
- 海に隔てられて外界・他国から遠い
- 国際市場から地理的に遠い
- 国土が広大な地域に拡散 → マネージメントの困難性
- 自然災害に襲われやすい
- 第一次産業(漁業、農業)への依存率が高い → 自然災害、国際価格変動などの外的要因に対して脆弱
- 国内市場の規模が小さい
- 国際貿易に過度に依存している
- 国際開発に対して脆弱である
- 輸送費と通信費が高い
- 行政とインフラの住民1人あたりのコストが高い
- 植民地支配の経験を持つ → 独立して間もない → 人材不足

島嶼国の恩恵(政治、外交的に重要)
水産資源の供給地
エネルギー資源等の海上移送ルート

パラオにおける保健分野の課題

- 人口の80%以上が集中するコロール州とアイライ州は、国立病院へのアクセスが良いが、バベルダオブ島北部ならびに有人離島への保健サービス供給体制は未整備(ディスペンサリー設置のみ)
- ⇒ ディスペンサリーを中心とした、**予防活動と地域保健活動**の充実により、保健ニーズへの対応を検討
- 台風などの自然災害への予防対策ならびに食糧備蓄を含む危機管理対策



島嶼看護教育の現状

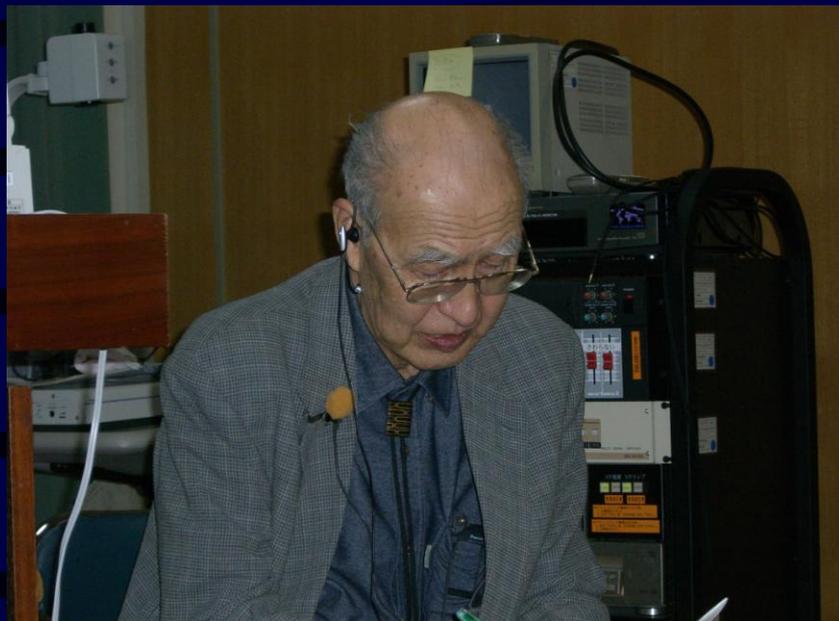
県立長崎シーボルト大学
植田悠紀子

実習場所

下五島(五島市:2004年8月 1市5町合併)
上五島(新上五島町:2004年8月 5町合併)
壱岐(壱岐市:2004年3月 4町合併)
対馬(対馬市:2004年3月 6町合併)



佐々木先生



Ono先生

ハワイ大学マノア校の修士課程

- 看護管理
- 看護管理/経営管理
- 看護教育
- 高度公衆衛生看護
- ナースプラクティショナー
- 成人 & 小児 精神医学/精神衛生臨床専門看護師
- 成人臨床専門看護師

NPの実践範囲

- 患者の身体的および心理社会的健康状態を評価する
- 正常および異常所見を評価する
- ケアを計画、実施、評価する
- 患者、支援体制および医療チームと相談する
- 患者に処方されたケア計画を管理する
- 正確な記録、適切な法律文書を提出し、維持管理する

遠隔学習とは何か？

- 学生は物理的に大学から離れていても、テクノロジー(技術)によって繋がっている。
- 多地域から、教員と学生は科学技術を使用して相互交流することができる。
- 目的: 学内生が利用できる教育的資源を他地域にいる学生にも利用できる手段(方法)を提供すること。



太平洋島嶼国の看護教育及び 医療施設の視察

目的：太平洋島嶼国の看護教育・
医療事情を視察し、島嶼看護
のあり方を考察する。

視察場所：

1) グアム

- ・グアム大学看護学部
- ・Central Public Health & Social Services
- ・Guam Memorial Hospital

2) サイパン

- ・Commonwealth Health Center

3) テニアン

- ・Tinian Health Center

結果：

- ・グアム大学看護学部卒業性は全米看護連盟認定の国家試験資格有り
- ・Health Centerでは診療が行なわれ、看護師が主体となって働いている
- ・生活の欧米化により生活習慣病が多い。予防活動が必要。
- ・島によっては結核等の感染症が多発。薬剤耐性菌もあり、早急な対応が必要。

グアム・サイパン・テニアンの視察風景



グアム大学看護学部



Central Public Health & Social Servicesにて



サイパンのHealth CenterにてGPの説明



テニアンのHealth CenterにてGPの説明

台湾視察

目的：台北医学大学看護研究科及び付属病院を視察し、大学院GPにおける大学院生実習地としての可能性の検討をする。

視察場所：

- 1) 台北医学大学看護学部研究科
- 2) 付属病院2カ所

結果：

- 1) 看護学部研究科・教員
1人当り英文の研究論文
4.8件/年
 - ・多数の公的研究費の獲得
 - ・多くの大学院生は、研究補助金でRAを行なっている。
- 2) 付属病院
 - ・高度医療の提供
 - ・Shuangho Hospitalは離島の救急医療を担当
 - +テレビ会議システムの活用
 - +ヘリによる救急搬送

台北医学大学看護学部研究科、台北医科 大学付属病院の視察風景



研究科の教員にGPの説明



ハイテク管理



カリキュラムの検討及び実施

1. 博士前期課程

- ・ 島嶼保健看護特論
- ・ 島嶼保健看護演習
- ・ 島嶼保健看護実習
- ・ 島嶼保健看護課題研究
- ・ 地域文化看護論
- ・ 他職種連携論 I

2. 博士後期課程

- ・ 島嶼保健看護特論 II
- ・ 島嶼保健看護特別研究
- ・ 国際島嶼看護論

沖縄県立看護大学大学院履修規程

(2009 院生便覧 p104)

第2条 授業科目の種類、配当年次、単位数及び必修・選択の別等は、別表1及び別表2のとおりとする。

2. 前項の規定にかかわらず、島嶼保健看護領域については、授業科目の種類、配当年次、単位数及び必修・選択の別等は、別表3及び別表4のとおりとする。

島嶼看護講義風景



遠隔教育

(保健看護と研究 I)



宮古島教室における講義風景

(テレビ会議システムでmain campusにも配信)

(島嶼保健看護特論 I)

ご静聴有り難うございました。

